



TOP MESSAGE



「環境価値創造」

「100年に一度の金融危機」と、「100年に1℃近くも上がった地球温暖化」の2つの危機に私たちは直面しています。各地で猛威をふるった今年の梅雨の豪雨は、地球から私たちへの鋭い問いかけである「地球の涙」とさえ思わせませす。

また、「地球環境の縮図」である琵琶湖の姿が大きく変化しています。水質の悪化や水草の異常繁茂、湖水の大循環による「琵琶湖の深呼吸」が遅れるなど、さまざまな現象は、世界の環境問題を象徴していると言えます。

このまま地球温暖化が進むと、地球の「体温」のティッピング・ポイント（臨界点）である「平均気温+2℃」を超えるのは2032年と予想されています。刻々と迫る危機的状況を前に、低炭素社会の実現は地球を「将来世代」に引き継ぐための、まさに現在の私たちに課せられた責務であります。

当行には「自分にきびしく 人には親切 社会につくす」という「行是」があります。そして、この「行是」をCSR（企業の社会的責任）経営の原点とし、「地域社会」、「役職員」、「地球環境」との「共存共栄」を多面的に追求しています。

具体的には、本業である「金融」の役割を通じて、さまざまな環境対応型金融商品・サービスの提供に努めております。また、環境配慮型のニュービジネスを育成することが地域に根ざす金融機関の使命と考えて取り組んでおります。「エコビジネスフォーラム・サタデー起業塾」は今年ではや10年目を迎えます。加えて、環境ビジネス展開に積極的な地元の中堅・中小企業のお客さまに、エコビジネス・パートナー探しの“場”を提供する「エコビジネスマッチングフェア」も昨年より開催し、今年は120社のご出展、2,600名のご来場をいただきました。

今後は展望しますと、気候変動、排出量取引、企業と生物多様性、ISO26000（SR規格）などが新しいテーマとして、現代の企業に、その取り組みを迫っています。持続的発展をめざす企業には、従来は無かった斬新な考えと活動、いわば“環境価値創造”が求められています。

環境分野は、中小企業ならではの新しい発想と技術が最も活かされる分野です。琵琶湖を有する滋賀県にエコ・ビジネスの「芽」が次々と生まれ、育っているのは頼もしい限りです。

このような状況下で、当行は「お金の流れで地球環境を守る」のは金融機関の社会的使命であることを再認識して、経営に環境を取り込んだ「環境経営」を一層充実し、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、地域社会、そして地球環境との「共存共栄」に努めてまいります。

平成21年9月

取締役頭取

大道良夫

